

## 特長の詳細

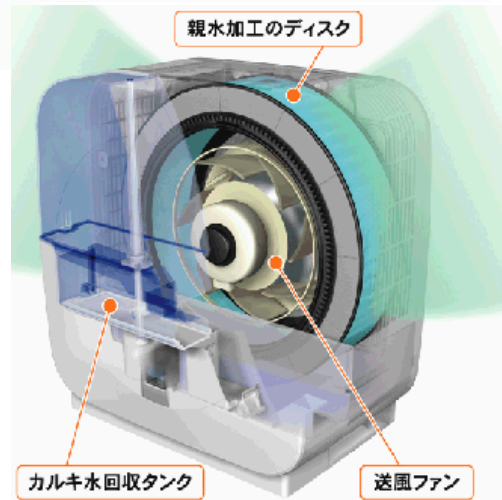
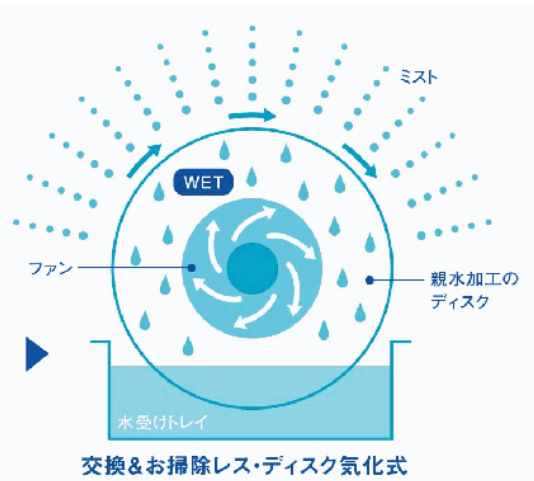
### 1. 新方式「交換&お掃除レス・ディスク気化式」で加湿フィルターの交換が不要(SV-DK807)

通常の気化式加湿機やハイブリッド式加湿機では、フィルター(不織布)で水を吸い上げて、そこにファンの風をあてて加湿しています。この方式では、フィルターが乾燥すると水道水に含まれるカルキ(カルシウム)成分が水アカとなって、フィルターに固着し、フィルターの吸い上げ能力が落ちて最終的には加湿量が減少してしまいました。

このためフィルターは、およそ 1~2 シーズンに 1 回の交換が必要でした。



水アカの着いたフィルター



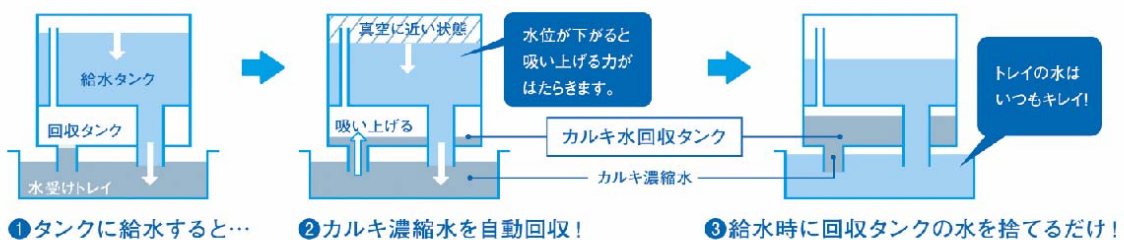
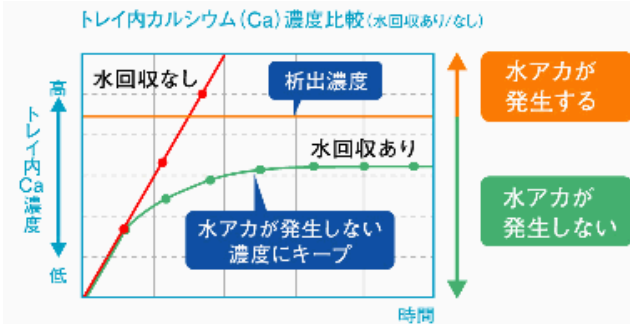
新方式の「交換&お掃除レス・ディスク気化式」では、表面に親水加工を施した大型の加湿ディスク 30 枚が水受けトレイ内を回転し、ディスクの表面に形成した薄い水膜で加湿する方式を採用しました。水アカの付着による目詰まりがなく、高い加湿能力の維持を実現しました。このため、フィルターの交換が不要となり、ヒーターを使わない気化式の電気代の安さと相まって非常に経済的です。

### 2. 業界初、「カルキ水回収システム」で加湿フィルターのお掃除が不要(SV-DK807)

通常の気化式加湿機やハイブリッド式加湿機の水受けトレイの水は、運転するうちにカルキ(カルシウム)濃度が高くなり、一定濃度を超えると、水アカとして析出(白く結晶化)するためフィルターに水アカがたまりやすくなります。この水アカを落とすために、月に 1 回程度、定期的なフィルターのお掃除が必要でした。

業界初の「カルキ水回収システム」は、カルキ濃度の高くなった水受けトレイの水を回収タンクに回収します。回収した水は給水のついでに捨てるだけの簡単メンテナンスです。

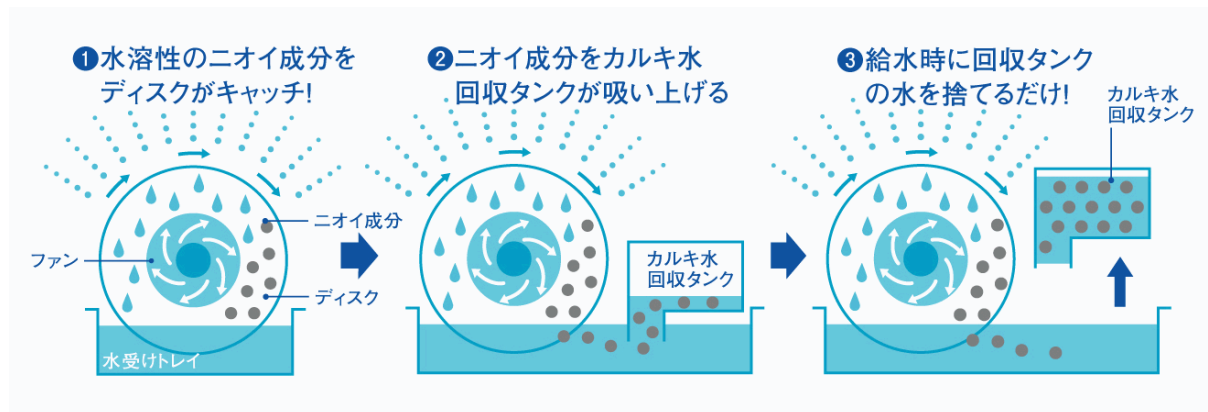
水受けトレイの中は水アカが発生しない濃度に保たれるので、加湿フィルターへの水アカのこびりつきが抑えられ、面倒な加湿フィルターのお掃除を不要にしました。



### 3. 業界初、「水脱臭」で加湿しながら生活臭を強力脱臭(SV-DK807)

水には水溶性のニオイ成分を溶かす性質があるので気化式加湿機は脱臭効果を持ちますが、一定量のニオイ成分が水受けトレイの水に溶け込むと飽和状態となるため、長時間の脱臭効果は望めませんでした。

「ラクリアミスト」は、「カルキ水回収システム」が水受けトレイ内のニオイ成分までも回収するので、トレイの中の水を新鮮な状態に保ち、水の脱臭効果を持続させることが可能になりました。生活臭の代表臭気であるアンモニアを従来と比べ約 2 倍脱臭します。加湿しながらお部屋のニオイも取り除き、快適な空間をご提供します。



#### その他の特長

#### 1. ワイドリビングや保育園、オフィスでも使える毎時 800mL のハイパワー省エネ加湿 (SV-DK807)

毎時 800mL の余裕の加湿量で最大 22 畳 (37m<sup>2</sup>) まで対応できます。ワイドリビングはもちろん、保育園やオフィス、診療所、美容院などの秋冬の乾燥対策としてもご使用いただけます。また、低消費電力の気化式なので、1 カ月の電気代はわずか約 132 円<sup>※6</sup>と非常に経済的です。さらに、加湿量を抑える長時間モードなら、1 カ月の電気代はわずか約 74 円<sup>※7</sup>です。

※6: 1 日 8 時間運転。電気料金目安単価 22 円/kWh (税込) で算出。60Hz 時。

※7: 長時間モード時は加湿量 46% 減 (毎時 430mL)。

#### 2. 長時間モードで給水の手間を大幅削減 (SV-DK807)

長時間モードは加湿量を抑え、12.3 時間<sup>※8</sup>の連続加湿が可能なのでおやすみの時などに便利です。おやすみ中の給水の手間がないので快適にお使いいただけます。

※8: 最大運転時は連続加湿 6.6 時間

#### 3. ウイルスの活動を弱める湿度に自動コントロール「のどガード」(全機種)

室温に応じて湿度をウイルスの活動が弱まる範囲<sup>※9</sup>に自動コントロールし、空気の乾燥で弱ったのど<sup>※10</sup>をケアする「のどガード」機能を全機種に搭載しました。

室温が低めの際はウイルスの活動が活発になるので多めに加湿し、室温が高めの際はウイルスの活動が弱まるので加湿量を落として、効率的な加湿を行います。

※9: G.J.Harper のウイルス生存率試験による。

※10: 空気が乾燥すると、血管の繊毛運動が妨げられ、ごみやホコリを正常に排除できなくなります (労働科学叢書 74「冬と寒さと健康」より)

#### 4. お肌の乾燥をケアする「うる肌モード」(全機種)

室温に応じて、空気中の水分量をお肌にとって最適なレベルに自動コントロールする「うる肌モード」を全機種に搭載しました。

室温 17℃以下の時は湿度 65%~75%、室温 18℃~24℃の時は湿度 55%~65%、室温 25℃以上の時は湿度 50%~60%と、室温に応じたゆらぎ加湿を自動的に行いますので、低温度帯で肌への乾燥ケア効果を増し、高温度帯ではお肌の乾燥をケアしながら余分な結露を抑えます。